

# 北海道国際理解教育研究協議会 会報

第21号

会長 磯貝 登  
事務局長 大泉 弘  
発行 1992  
2. 14

『すぐれた実践に学びつつ

更に創造的な実践を』

道国際理解教育研究協議会事務局長  
室蘭市立高砂小学校長 大泉 弘

時は、まさに激動の時代であります。昨年、湾岸戦争で年が明け、その後民族紛争が各国で起きたことも関心事でした。

何と言いましても、ソビエト連邦の崩壊、そして消滅は驚きでした。さらに、独立国家共同体の成立をみるなど明日の世界が読めない程の激しい変わり様の一年は、今世紀で最大の激動の年であったと思います。

こうした激動の国際社会の中にありまして、我国がどんな役割を担い、その責任をどのように果たしていくのかが世界の注目を集めております。

そこで、今こそ、私達が、次代に生きる子ども達には、国際理解のための教育が重要だということをより強く訴え、さらに実践を通してその重要性を示していくことが大切であると痛感しています。

そうした中で、今年度も、全道各地で国際理解のための実践が創造的に取り組まれました。

そして、年を追う毎に、研究の質的充実をみておりますことは嬉しい限りです。

その陰には、会員の方々の大きな努力がありましたことは勿論ですが、会員外の多くの先生方、さらに関係機関や団体の支援と協力によりますことも見逃すことはできません。

皆様方に心より感謝を申し上げます。

今年度の実践や活動には、いくつかの特筆すべきものがありました。

第一には、各地で開催されました国際理解教育研究会が質的に充実してきており、参加者も増えてきていることであります。中でも、帯広市の花園小学校を会場として開催されました全道研究大会は、小中高等学校の公開授業をはじめ、どれをとりにしても全国レベルを越えたものであるという高い評価を得ました。

次に、八雲養護学校の原 恒夫先生が、国際理解教育の永年の実践が認められ、全国海外子女教育研究会の推薦を受けて、日本教育連合会より栄えある実践表彰を受けたことであります。これはまさしく北海道の実践が高いものであることを示しております。

第三には、道事務局が中心となって、新しい取り組みですが、昨春帰国した派遣教員の実践報告集を作成したことであります。現在、この報告集の有効活用の方法を探っているところです。

最後に、think globally and act locally を合言葉に、各地の課題を全道の会員の方々と共に支え合い、北海道における国際理解教育の牽引的役割を果たしていきたいと考えています。

# 事務局から

今年度最後の会報『NO. 21』をお届けします。

前号から担当していますが、初めての仕事で何かと行き届かない点があるかと思いますが、ご容赦下さい。今号では、現在海外に派遣中の諸先生方からのお便りをご紹介します。派遣中くれぐれも健康に留意されてのご活躍を祈っております。なお、ブラジルのビクトリア 村瀬 正貴先生からも便りがありました。

## お知らせ

前号でご報告した

『第12回北海道国際理解教育研究大会十勝大会の大会集録』と、

『平成3年帰国の派遣教師帰国報告集』

が完成致しました。年度末になりますが、各支部の代表の方をお願いして、会員の皆さんに配布する予定です。

### ・会費の納入のお願い

前回、未納会員へ督促致しました。重ねて会費納入をよろしくお願い致します。

平成4年度在外教育施設派遣教員（管理職）一覧

所 属	職	氏 名	派遣先及び職名
広島町立 大曲中学校	校長	末永 春吉	シドニー日本人学校 校長
豊浦町立 豊浦小学校	校長	有江 則雄	ソシオポール日本人学校 (小学部) 校長
札幌市立 北 小学校	教 頭	山内 武道	ボンベイ日本人学校 校長
札幌市立 北辰中学校	教 諭	橋本フミエ	フランクフルト日本人学校 教 頭

※委嘱期間 平成4年1月1日～平成7年3月31日  
派遣期間 平成4年4月1日～平成7年3月31日

平成4年度 在外教育施設派遣教員（教諭）内定候補者一覧

管内	所 属	職名	氏 名	派 遣 先	
				日 本 人 学 校	職名
渡島	森 町立森小	教諭	斎藤 雅樹	(ベル-) ブラッセル	教諭
後志	小樽市立幸小	教諭	尾崎 昌江	(ケ-7) ナイロビ	教諭
	余市町立旭中	教諭	渡辺 常彦	(ト知) イスタンブル	教諭
	共和町立共和中	教諭	三浦 正美	(ハレ-) バハレーン	教諭
上川	南富良野町立機寅中	教諭	工藤 芳晴	(コソビ7) ボゴタ	教諭
	風連町立東風連小	教諭	山本 昇一	(イソ) ボンベイ	教諭
	旭川市立神居東小	教諭	在間 寛	(オ-スト17) ウィーン	教諭
宗谷	歌登町立本幌別中	教諭	久保 俊博	(イソ) ニュー・デリー	教諭
網走	女満別町立女満別中	教諭	平野 毅	(ソソソソソソ7) ジェッダ	教諭
胆振	室蘭市立本室蘭小	教諭	澤田 光男	(オ-スト17) シドニー	教諭
	虻田町立洞爺湖温泉中	教諭	鈴木 学	(ベルス7) カラカス	教諭
釧路	浜中町立真人中	教諭	笠島 博	(イソ17) バンドン	教諭

派遣予定期間： 平成4年4月1日～平成7年3月31日

平成4年度在外教育施設派遣教師

激励会のお知らせ

節分もすぎ さすがの寒さも和らいで日中の日の暖かさにも春の足音を感じるようになりましたが、会員の皆様におかれましては、年度末の諸行事等でご多忙のことと拝察致します。

さて、平成4年度「在外教育施設派遣教員」が別紙のように内定したとの連絡を道教委より受け取りました。来年度は、16名の派遣です。つきましては、恒例の「在外教育施設派遣教員激励会」を、本会主催、北海道教育委員会の後援によりまして下記の通り開催致します。

卒業式や進路指導など年度末業務が迫っていて大変でしょうが、かってご自分が派遣された時のことを思い出して、派遣者への激励や助言に、一人でも多くの会員に出席していただきたくご案内申し上げる次第です。特にかって自分が勤務したと同じ学校に行かれる方がいらっしゃる場合には、是非とも出席していただいて詳しい助言を差し上げて欲しいと思います。

なおどうしても参加できない方は、別紙の内定者一覧を見て「心得や準備等で重要なこと」を電話か手紙で助言していただければ幸甚です。

言記

1. 日時 平成4年3月11日(水)午後6時30分～8時30分
2. 会場 ホテルアカシア 3F「にれの間」  
住所：札幌市中央区南12条西1丁目  
電話：011-521-5211
3. 会費 6000円：(今年も、激励会後に別室にて懇談会をいたします)
4. 旅費 自己負担
5. 宿泊費 自己負担  
互助会の割引利用券(事務官からもらって直接フロントに提出)を使うとお一人、朝食(800円)込みで、2000円位です。

アカシアには、2月末までの期限で3月10日の宿泊については部屋をキープしていますのでご利用される方は至急電話で申し込んで下さい。申し込む際「海外派遣の激励会に参加する者」であることを申し添えて下さい。

2月を過ぎますと、事務局でキープしている分については解除しますが、部屋が空いている場合もありますので、一度アカシアに問い合わせられることをお勧めします。なお3月11日はすでに予約で満室になっています。本会の名義で和室(数人相部屋)を3部屋2月末までキープしていますのでご利用下さい。

6. 申込み 激励会の申し込みは、3月4日(月)まで葉書(住所、氏名、学校名、電話、派遣年度と派遣学校名を記入)で申し込んで下さい。  
(間に合わない場合は電話でも可)  
なお4日以降でキャンセルされる場合は必ずお知らせ下さい。

連絡先 ----- 板垣 修 -----  
昼間：西部小学校 広島町島松284  
☎ 011-376-2104  
夜間：恵庭市恵み野西6丁目5-18  
☎ 0123-36-3278

## 『第二回 石狩管内国際理解教育研究会』開催のご案内

国の内外ともに、落ち着いた情勢にありますが、この研究会のご案内をいたします。

ここ数年、国際理解教育の必要性が叫ばれ、各地において実践され始めておりますが、学校現場のなかで今後どう具体化していくかが課題となってきた状況です。

さて、石狩管内の国際理解教育研究会が発足して三年が経過しようとしています。このたび関係各機関のご理解とご協力によりまして、昨年に続いたの研究実践を公開する機会が与えられました。

学年末の多忙のなか、「身近な国際理解教育」をテーマにしたささやかな研究会ではありますが、関心のある先生方の多くの参加をお願いしてご案内といたします。

1. テーマ 「身近な国際理解教育」
2. 期 日 平成4年2月20日(木)
3. 会 場 江別市立江別小学校
4. 日程&内容

---

13:45 ~14:30	授業公開
	小学1年生 道徳 「世界の子供」 —— 私たちのことば ——
	授業者 江別小学校教諭 細川 道子
14:45 ~15:30	全体会、事後研究
	・授業の話し合い ・国際理解教育の動向
15:40 ~16:30	講 演
	「バリ日本人学校の子どもと生活」
	講師 石狩若葉小学校教諭 清水 博 (元 バリ日本人学校教諭)
16:35	閉 会

---

### 5. 主 催

石狩管内国際理解教育研究協議会 (会長 恵み野中学校長 藤川 正吾)

### 6. 後 援

石狩教育局 石狩管内教育研究会 江別市教育研究会

### 7. 参加申込み

各学校の研究責任者を通して、2月14日(金)までに下記へお願いします  
江別市立大麻小学校 桜田 和雄 ☎011-386-5301

海外からの便りが届いていますのでご紹介致します。

ヤンゴンに派遣中の 細川 清茂 先生

## ヤンゴン便り

1992年1月1日 元旦

新年 明けまして おめでとうございます

遠く離れたヤンゴンから新年のご挨拶を申し上げます。

こちらに来て、早くも2回目の正月を迎えました。雪のない生活にも慣れ毎日、充実した日々を送っています。

それでは、新年に当たりミャンマー事情をお送り致します。

長文のお便りですので、申し訳ありませんが割愛させていただき、一部をご紹介します。 なお、他には次の内容がありました。

\*12・10事件（スーチー女史ノーベル平和賞受賞日）

\*自転車事件（娘2人に自転車を買う）

\*GNP US\$200

\*身近に感じる第2次世界大戦

\*ある家庭のある婦人の1週間

\*ヤンゴン妊娠症候群

### ※7か国をまわる

今までに、インド、ネパール、マレーシア、シンガポール、中国、タイそして、ミャンマーとたくさんの国々を訪れる機会を得ました。

それぞれの国の特色や風土を体験することができとても喜んでいきます。

国々の習慣を見て日本との違いにびっくりしたり、または、日本と同じ遊び（凧揚げ、ビー玉、ゴム飛び）をみて懐かしくなったり、貧しさを見て、自分の姿を顧みたり、そして、一番感じることは、貧しくとも自然とともに生きている人々を見て、日本は、コンピューターに追いまくられ、自分という存在感

がなくあくせく動いているロボット列島に写ります。

一時帰国で、あるスポーツ店に入りました。突然、大声で、「いらっしやいませ、何に致しましょうか。――毎度ありがとうございました！」まるで、寿司やさんにでも入ったような気分でした。そして、その店員は、一度もわたしの顔は見ようとしなくて終始作り笑顔だけを一生懸命装っていました。それほど、私の顔は見られないのでしょうか。日本の商店は、表面は、にこにこして従順そうですが、眼が冷めていて内面は決して見せません。

それに引き換え、他の国では、表面は、ぶっきら棒ですが、必ず、眼を見てきます。最初に目であいさしてきます。知らない人でも街角で目が合えば、微笑みを交わします。実に気持ちがいいものです。日本でそれをやると「あの人の顔ばかりみて、いやらしわねエ。」とききます。

ここミャンマーは、特に眼であいさつをします。

徒然なるままに書きましたが、以上で新春のあいさつとします。

細川 清 茂

真喜子

友貴乃 (小5)

恭 葉 (小1)



C/O Embassy of Japan

100 Natomauk Road

Yangon Myanmar

ハンブルグ  
通 信

## ELBE河畔

第19号 12月10日

ハンブルグ日本人学校  
教諭 藤崎 良二

### ギムナジウム訪問 (ドイツの教育について)

いよいよ年の瀬も近づいてきましたが、いかがお過ごしでしょうか。  
ハンブルグ日本人学校では、私たち教師もドイツの学校についても学ぼうという  
ことで、交替で学校訪問を行っています。先日、私は近くのギムナジウムを訪  
問させていただきましたので、そのことをお知らせします。

ドイツの学校は、まず、6歳から10歳までのグルトシューレ (Grundschule)  
) というのがあり、これが日本の小学校 (1年から4年) にあたります。日本人  
学校隣接のドイツ校がこれにあたります。4年間担任が変わらず、クラス替えも  
しないのが原則だということです。1クラスの人数は30人以内で、普通は25  
人前後だそうです。隣の学校をみていると、午後1時頃には下校しています。

4年制の小学校を卒業した後の進路には、ギムナジウム (Gymnasium)、リアル  
シューレ (Realschule)、ハウプトシューレ (Hauptschule)、ゲザムトシューレ (Ge  
samtsschule) があります。最終的に進路を決めるのは保護者ですが、小学校の担  
任教師の判定が基準になるそうです。進学後2年間は観察期間として、他との入  
れ替えがあります。

小学校4年生の段階で、ある程度進路が決まるのですから、それについての賛  
否はいろいろあるようです。

#### ギムナジウム

将来は大学進学を目指す者の9年制の学校。主要科目で3  
(可の上)以上の成績を得た生徒の進学先。5年生から外国語  
を学び、7年生から第二外国語が加わる。2科目に6段階評定  
で5 (不可の上)があると留年する可能性がある。10%ぐら  
いの者が留年するようだ。12年生終了段階で、大学受験資格  
(アビトゥア=Abitur)試験を合格すると卒業となる。大学は、  
これで入ることができる。私立大学はほとんどないので日本の  
ような受験戦争もなく、大学の費用もほとんどかからない。し  
かし、卒業が大変である。

#### リアルシューレ

5年生から10年生までの6年制。卒業試験に合格すると中  
卒資格となり、通例は職業見習いや専門高校 (2~3年制) に  
入る。見習い制度 (Lehre)とは、手工業を中心とした職人見習  
い制度で、職人を経て職匠 (マイスター=Meister) となる。  
資格試験は商工会議所が実施する。この資格がなければ開業す  
ることができない。(肉屋、パン屋、美容師など)

#### ハウプトシューレ

5年生から9年生までの5年制で、この学校の卒業は中卒と  
区別され、義務教育終了といった意味でしかない。中卒資格を  
得るためには、もう一年進学クラスに通わなくてはならない。  
見習い職業では、中卒資格がないと不利である。最近、生徒



数が減る一方で、都市では外国人（トルコ、ユーゴスラビア、ポーランドなど）の子どもが増えて、ドイツ語を教えることにかなりの時間を要する。（ドイツでは外国人の子にも義務教育を課す。）

ゲザムトシューレ 上記3つの学校に、10歳前後の子どもに区別をつけるのは不公平であるとの考えから生まれてきた総合学校。13年生までである。この学校ができたことには賛否両論がある。

さて、私が訪問したのは、毎年、学芸文化発表会でホールをお借りしている、ビルホーデンギムナジウムです。5年生から13年生まで約700名の生徒がいます。校舎はほとんどが一階建てで、庭が広く実にゆとりがあり、うらやましい限りでした。日本でいうと大学一年生までいますので、車で通学する生徒やたばこを吸う生徒もいます。学校には喫煙室が設けられていました。

子どもたちは毎日の朝会はなく、すぐ1時間目の教科の教室へ行きます。担任はいますが、学習はすべて教科担任制です。高学年は専門的教科で分かれるそうです。担任は子どものいろいろな相談にのるそうです。（カウンセラー）履修科目が終わると、クラブ活動もあり何かのクラブに所属しているそうです。音楽などは、バイオリン、ピアノ、フルート等いろいろ分かれているようです。

落第や飛び級があり、ひとりひとりの子どもに対して、教科担当の先生が協議して進学を決めるそうです。5段階（6段階評価で1が一番よい）が二つあると落第するそうです。その点は、大変厳しく当然と考えているようです。

一学級の生徒数はだいたい25名ぐらいだそうです。日本の若者のように髪を染めたりする子がいるのではと思いましたが、そのような子は見当たりませんでした。服装も自由ですが質素でした。向学心に燃えている様にも見えます。

校長先生の話では、教育の基本は、自分で考えること、自分の意見をもつことであるということです。日本でもいわれている自己学習力に通じる話で、大変参考になりました。

校舎の中にある階段の隣には必ず車椅子用のスロープがあり、3～4階の校舎には車椅子用のエレベーターがありました。校長の話ですと、4名の障害者がいるそうですが、車椅子を使っているかどうかは聞けませんでした。前に行った他のギムナジウムでも同じような施設がありました。以前、新聞に障害者の高校入学拒否についての記事が載っていましたが、福祉の面でも感心させられました。

ギムナジウムの校舎の壁面に大きな落書きがありました。「Abiturを取った」という文字です。卒業の時に一回だけ無礼講が許され、その時、卒業試験合格のうれしさに書いたそうです。

◆◆◆◆◆  
今は、朝晩暗い中で仕事をしています。12月になるとクリスマスの飾りで街が賑わいます。各家庭では4本のろうそくの飾りを作り、4週間前から週ごとに一本ずつ点していきます。家々の窓辺もいろいろなイルミネーションで飾られています。今年は、ソ連が崩壊し世界は激しく動いた年でした。ドイツでも統一後経済が大変です。難民問題もできました。ECも統一のために動いています。

そしてハンブルグ日本人学校も10周年記念式を終え新しく出発しました。来年も頑張っていきたいと思います。皆様も、良いお年をお迎えください。

*Frohe Weihnachten und die besten  
Wünsche für das Neue Jahr*

バルセロナ日本人学校から～白井 潔 先生



*Colegio Japonés de Barcelona*

*les desea felices fiestas*

*y un*

*próspero año 1992*

*Hiroyoshi Shirai*  
*Director*

この街に住んで三年。  
一月には北海道の北海道に  
行く予定がなりました。  
お土産の準備も済ませました。  
白井 潔

\*\*\*\*\*

### ジュネーブ通信

\*\*\*\*\*

明けましておめでとうございます

ジュネーブに来て、9ヶ月が過ぎました。最初は日本と違う生活に随分戸惑いましたが、今では少しずつこちらの生活にも慣れ、家族全員元気に暮らしております。

でも、こちらではお正月という習慣がないため、子供達は「お雑煮には食べれるの？」妻は「紅白歌合戦が見たい！」そして私は「ラグビーのTV観戦をしながら、お酒をチビリのひとときはどうなるのだ」と、(日本お正月シビック)にかかってしまっているところ

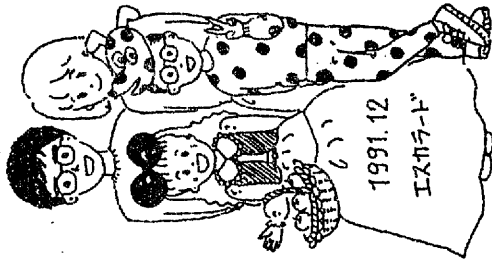
です。  
昨年は、ソ連解体等世界情勢も大きな変化があり、また小島家にとっても、スイスへ転勤という一大事が起きた年でした。

これからもこちらでの生活は続きますが、家族、力を合わせて頑張っていきたいと思います。

この平成4年が皆様におかれましても、尚一層の隆進の年になりますようお祈り致します。

本年もよろしく願い致します。

お正月特集号  
発行 平成4年1月1日



### 小島家 NEWS 葬

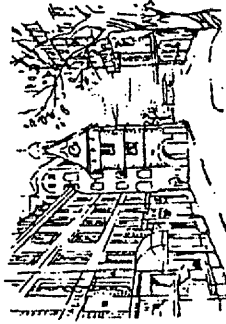
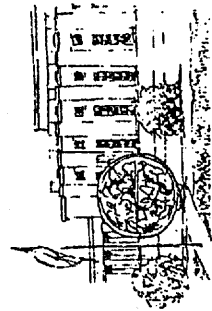
～こちらでの家族の生活ぶりです～

① ジュネーブ補習授業校に勤務。小学2年・4年・中1・中3を担当しています。仕事は順調ですが、毎日が多忙でちゅっぴり？白髪も増えてきました。先日、スキー一式を購入。この冬休みは、スイスの山を滑るぞ！とはりきっています。運動不足が心配ですが・・・  
( 雅人 )

② 日本からの便りが一番の楽しみで、毎日せっせと手紙書き。夫婦で始めたフランス語は、未だ劣等生のまま。最近、スイスの焼き物ニオン焼きの絵付けを習い始めました。大の苦手のスキージズン到来に、せめて娘の嫁に追いつこうと必死です。  
( 泉 )

③ 現地校ブディン小の4年生。フランス語は、家族で一番進者。近ごろ、寝言にフランス語が飛び出しました！家では相変わらずファミコンに夢中。でも、補習校や通信教育の勉強も頑張っており現地校からももらった通知表も、算数は学年で一番でした。  
( 雄介 )

④ 現地校ブディン小の2年生。現地校で折り紙の先生？として人気者で、友達一杯でまきました。エスカレードというお祭りでは白雪姫になりました。フランスパン、ラクレットチーズといったスイスの食べ物が大好物。かけ算も、しっかり覚えました。  
( 綾 )



学校通信 第13号 ★やさしく・きびしく・たくましく★



	1	2	3	4	5	6	計	I	II	III	計
男	3	4	2	0	2	2	13	2	2	2	6
女	3	0	3	5	0	2	13	0	1	1	2
計	6	4	5	5	2	4	26	2	3	3	8

ジッダ日本人学校 平成3年12月26日

【平成3年12月26日の児童生徒数 計 34人】

＊ 2学期をふりかえって ＊

まだまだ酷暑の9月から、朝夕めっきり涼しくなってきた12月下旬まで、2学期の授業は86日間、子ども達は元気一杯、勉強にスポーツに頑張ってきました。またこの学期は行事も多く、主なものを拾いあげてみても、水泳大会・修学旅行・学習発表会・運動会・遠足と続き、教科学習との調和をとりながら実施してきました。毎日の学習はもちろんのこと、それぞれの行事に対しても、多大なご協力を戴きました誠にありがとうございます。

ところで子どもさんの成長ぶりはいかがだったでしょうか。満足？不満足？そこで、ちょっと考えて見たいのですが、子どもの成長を促す栄養剤はなんといっても親の「まなざし」ではないでしょうか。不足すれば成長がとまってしまうかもしれません。かけすぎは栄養過多になりましょう。子どもの年齢に応じた距離をもって、「まなざし」をやさしく・きびしくむけてください。

＊ 良いお年を ＊

冬休みといえば、こたつ・もちつき・正月・雪・などなど、日本流の寒さ楽しさを連想するのですが、ジッダではどうも実感としてわいてきません。

でも、この休みを利用して多くのご家庭が、ヨーロッパ・エジプト・東南アジアなどに旅行されます。またジッダに残られサウジの正月を祝われるご家庭もあると思います。とくに寒冷地に向かわれる場合は、風邪などひかれぬように十分に注意し、合わせて衛生面・安全面にも留意されて、楽しい旅をされて元気でジッダにお帰りにください。ご家族お揃いで、良いお年をお迎えください。



＊ 日本人学校の先生をしていただけませんか ＊

文部省の派遣教員が昨年の9人から今年は7人と減になったのはご承知の通りです。文部省の出している在外教育施設派遣教員定数によると、「国内の小・中学校における学級編成及び教員数算定基準に準じて必要教員数を算出し、その80パーセントを基準とし、さらに各在外教育施設の特別事情を勘案して……。」とあります。

つまり不足分は講師でまかなえということなのですが、当地にて教職経験者あるいは教員免許をお持ちの方を見つけるということは物理的に極めて困難であります。また国内から専任講師を招聘することは、大規模校で可能な話で、昨今の日本人学校の財政では全く夢のような話です。

そんなわけでどうしても派遣教師の奥様に講師をお願いすることになるのですが、奥様方も元来教育が目的で当地にきたわけではなく、ご無理を承知でお願いしている現状です。教育の仕事は子どもが相手だけに少しくらい体調が悪いといって休むわけにもいかず、本当に御苦勞をおかけしています。

	生徒数	教員数	中学部
A校	46名	8名	無
本校	34名	7人	有

ちなみに国内のある学校Aと比較したのが左の図です。表はともに校長・教頭を含めた人数で、A校には常勤講師1名がふくまれています。経営規模の点でいきますとA校46名小学部のみというのは実に望ましい姿といえます。本校の場合、中学部（専科制）を有しているため、教科時間割が複雑になり効率の点

では良いといえず、教材の入手・カリキュラムなど当地の状況を総合的に勘案しますとやはり派遣教員が少ないと実感いたします。

現在講師をお願いしている先生の中にも体の不調を訴えている方もおり退任の意思をおもちですが、どうにもならないのが現状です。

上記のような実情から、日本人学校では教職経験者、教職免許所有者または免許はないが、この教科なら教えられるという方を探しています。学校の方に一報いただければ幸いです。

また3学期には一部授業担当者が変わりますがご了承願います。

＊ありがとうございます＊

日産様からタイヤを1本ご寄贈いただきました。

＊冬期休業中の学校は閉校です＊

年末年始休業 28日～1月3日 (この間は学校を閉じます)

1月の行事予定

- ～4日 冬期休業
- 5日 始業式・体格測定
- 6日 クラブ
- 7日 幼稚園始業式
- 8日 マッサージマの会
- 11日 学校運営委員会
- 13日 クラブ・交通安全教室
- 15日 写生大会
- 20日 クラブ
- 27日 クラブ
- 29日 社会見学



POST  
CARD

DEC  
99

年賀

0/2

RAMBUAN  
Mylzwan 40c



# 謹賀新年

生まれて初めての半袖・短パン、雪のない正月です。マレーシアには、チャイニーズ・ニューイヤー、アワラムハラム、ディーパバリと中国人、マレー人、インド人の3つの正月があり、でも、その習慣の違いを越えて開花して結びついているこの国の人々にある種の偉大さを感じながら、州によらずは日ですらない1月1日、新年を、至るまでクワラーの音を聞きながら迎えています。

ありがとうございます。駅いりお返し  
お電話  
11月お返し。若輩者ごめん、今年も  
お返しお返し。

NAOKI HASHIMOTO

80-13-2, Feber Height Condo.,  
Jalan Desa Utama off Jalan Kelang Lama,  
58100 Kuala Lumpur, Malaysia.  
Tel: 03-7821123

マレーシアに派遣の  
橋本 直樹 先生 から



新年、明けましておめでとうございます

12/21 2時間目3年生の算数の授業を始めて間もなく窓打つ雨音に惹いて外に目を移すと、プールの水面をアラブの雨の音が軽快なポップスのリズムに乗って無数のシュプールを描いているのです。

休憩時間のチャイムが鳴り、階下へ下りてみると玄関は、すでに水浸してグランドは20cm程のオアシス?に様変わりしているのが目に飛び込んできました。

年に3,4 回程度の雨の日ですからその影響も大変なものです。

グランドから溢れた水は隣のコンパウンドの玄関に流れ込み、アラビックで声高に苦情の電話がかかって来たり、ドライバールームの外壁に取付けてある配電盤がショートして火を噴き、慌てて消し止める騒ぎです。

一步外に出てみると排水口のない道路(もともと雨の降らない土地柄ですから初めから排水口は作られていません)ですから一度雨が降るとたちまちワジ(雨が降った時だけ出来る川)に变身し、町行く車が至る所でエンストして立往生、その結果交通渋滞が起り、あちこちからクラクションがけたたましく鳴らされます。

一夜明けても水溜まりの道路があり、迂回をしての通動になります。

ドライバーの話では4年振りの大雨と言うことですので、事の成り行きや顔末が符合するのは当然と言えるでしょう。

こんなハプニングが過ぎた今日この頃は、朝夕めっきり涼しくなり日本の秋を思わせる気配を感じます。

さて、私の任期も余すところ3ヶ月ばかりになりました。

思い起こせば湾岸戦争を初めとして諸々のできごとで賑わった歳月でしたが平成4年の新年を迎えるにあたって、ここに改めて初心にかえり、国際社会に生きる子どもたちの「知恵づくり、心づくり、体づくり」に努め、望ましい海外子女教育の在り方を追い求めて行きたいと思えます。

時候と年賀を兼ねた奇妙奇天烈な新年の挨拶状になりましたが、皆様方の旧年に倍してのご多幸とご発展を祈念して新年のご挨拶といたします。

橋本 直樹

1991, 12, 24

在サウジアラビア王国  
ジッダ日本人学校

校長 藤本 伸治

台湾の高雄に派遣の 柳原 愛子 先生

新年を迎え皆様いかがお過ごしでしょうか。  
高雄の一月は、気温十五、二十三度ととても爽やかです。  
台湾のお正月（旧正月・二月）は、爆竹が鳴り響き  
広場では竜や獅子の舞が行なわれ大変にぎやかです。  
一年に二度のお正月は、二、三年をとるよう複雑な気がします。  
細く太陽の下、暑さにも生活にも慣れ元気に過ごしています。  
様々なことに驚くことばかりですが、健康で過ごせたことに感謝の毎日です。  
ここでの生活は貴重な時間。精一杯いろいろなことを吸収していこうと思つてい  
ます。  
今年もよろしくお願ひ致します。  
皆様のご健康とご多幸を心からお祈りしております。



生意興隆通四海・財源茂盛達三江

好手新禧恭

恭賀新禧

久去春來

迎春接福

花迎喜氣

福滿門

恭賀新禧

新年を迎え皆様いかがお過ごしでしょうか。  
高雄の一月は、気温十五、二十三度ととても爽やかです。  
台湾のお正月（旧正月・二月）は、爆竹が鳴り響き  
広場では竜や獅子の舞が行なわれ大変にぎやかです。  
一年に二度のお正月は、二、三年をとるよう複雑な気がします。  
細く太陽の下、暑さにも生活にも慣れ元気に過ごしています。  
様々なことに驚くことばかりですが、健康で過ごせたことに感謝の毎日です。  
ここでの生活は貴重な時間。精一杯いろいろなことを吸収していこうと思つてい  
ます。  
今年もよろしくお願ひ致します。  
皆様のご健康とご多幸を心からお祈りしております。

平成四年 元旦

平成4年1月23日

平成3年度在外教育施設派遣教員  
（原籍校：札幌市立柏中学校）  
デトロイト補習授業校長 大潟 勝

平成3年度の業務に関する報告

拝啓、時下 益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

年度末を迎え、日々、ご多忙の毎日かと拝察致します。

貴職をはじめ皆様のお力添えて昨年4月に無事、当校に着任させていただきました。以来、10ヶ月、新しいことに直面しながらも何とか職責を果たしておるところでございます。

さて、補習授業校と申しますと本国で言う定時制の教育施設であって、つまり、本校の場合、土曜日みの学校ですから、ともすると、私共の勤務も土曜日のみと誤解をされる向きもありますが、土曜日のために他の曜日があるような学校でございますので、勤務は火曜日から土曜日までの週休2日体制でございます。

この様な事情から、土曜日だけ子供達に教える講師（現地採用教員）も極めて多士済々、大学の教授あり、研究生あり、永住権の持つベテランの教員あり、駐在員の奥さん（日本での教職経験）あります。ほとんどの方がバイリンガルか、かなりの会話力を持っています。学校を運営する側の方々には企業（商社、メーカー等）で日夜働んでいる人々です。従いまして、様々な方々と接しますのでいろいろな考え方や行動のパターンがありますので大変勉強になっております。

父母会は全世帯が土曜日一日のために何等かの形で係わりを以て活動致します。

例えば、廊下や教室で児童生徒の生活指導や図書の貸し出し当番、駐車場の係り等をする如く…

概略は報告の中にまとめましたのでご一読戴ければ幸いです。

子供達は二重の文化、日米二つの教育プログラムの狭間にあります。このこと自体は子供の意思と係わりのないところで決められている訳で、それ故に一端問題が生ずればかなり深刻な状態になります。現在、多かれ少なかれ共通の問題として考えなければならない問題に、二つの問題があります。

一つはアイデンティティに係わる問題です。在留期間が長く、5年以上も在留している子（中にはアメリカ生れの子も少なくありません。）のような場合、両親の日本人としてのアイデンティティとアメリカの中で培われた自分自身との比較の中で迷い、悩むことになります。中・高校生辺りになりますと「自分は何人なのか」「自分の

国はどこなのか」等、自分の困ってたつ基盤に対して疑問を持ち、極端な場合は無国籍者、または新たなるコスモポリタンの登場となります。

考えてみますに、この事の「根」の一つには日本語の力（読む、書く、聞く、話す）の習熟度がどの程度かと言うことと密接に関連しているものと思われま。なかなか、読解力の在る、無しが重要であって、在る者のほうがより確かな形で日本人としての自己を確立するのが速いように思われます。

今一つの問題は在留期間が比較的短い場合（凡そ3年以内）です。

この場合、日本語も不十分、英語も不十分のまま帰国することになるようです。中学生・高校生の時に渡米してくる場合と小学生の時とは英語の授業について行けるスピードは小学生の方がはるかに速く、しかも、低学年になるほど適応力があります（勿論、個人差はありますが）から、中・高校生の場合は「英語での授業」が大変辛いものとなります。その上、日本語についても土曜日一日の補習校の授業のみでは系統だった国語力をつけるには何とも不十分と言わざるを得なくなります。親も子ども当然、帰国後の受験のことが念頭にありますから、その不安と悩みは深刻です。

このように日本の子供達は抜き差しなら無い状況の中にあります。

更にも、目を現地校の側に転じて見ますと様々な問題を生んでおります。

当グレーター・デトロイト地域の小学校でも、一校に100名以上の日本人の児童が通学するようなケースが増えており、（日本人は治安、教育等の環境の良いところに住居を集中させる傾向が大）ESL教室には日本人ばかり、教室、廊下には日本人だけで固まって日本語が飛び交うため、先生方や他の子供達との意思の疎通を欠くことにもなります。アメリカの先生方と話をしますと、本音の部分で「高いお金と人と時間をかけて英語の力をつけたいと努力しても、日本人は固まりすぎてアメリカ人や文化を理解しようとしない、英語での授業が少し分かり掛かった頃に帰国する。これではエネルギーの浪費である。肝腎のアメリカの子供達に対する教育サービスが低下する。」と言う苛立ちがあります。

現在、アメリカは不景気のため教育予算が増えず、ESL教育やマルチ・カルチュラル教育の予算は大幅に縮小されていますので、この種のアプログラムが削減されてきております。つまり、「お荷物」になってきていると考えられます。

その為、先日、或る一つのスクール・ディストリクトに対して、日本人会及び当補習校の名前で寄付を呼びかけ、約3万ドル弱集め、提供してプログラムの存続を得ました。

つまらぬことをいろいろ書きましたが、これらの事柄の裏に、今の日本の、日本人の在り方や責任が問われていると考え、「世界に貢献する国際人としての日本人の在り方」などを教育の側面から考えてみたいと思っております。

では、皆様 向寒の折からどうぞご自愛下さいませよう。

敬具